

## 大使コラム（2012年6月）

6月、先月半ばまで続いた涼しい気候のためか、例年よりだいぶ遅れて、リスボンの街路樹に青紫のジャカランダの花が目立つようになりました。郊外でも色とりどりの草花が、春の陽光に輝いています。魚市場で見かける旬の鰯も大ぶりになり、市内のあちこちで、この魚を焼く香りが漂う季節となりました。

この爽やかな季節とは裏腹に、先月初めのギリシャ総選挙の結果、ユーロ危機がまた深刻さを増し、世界経済に暗い影を投げかけています。当地から彼の国の混迷ぶりを見るにつけ、同じくトロイカの財政支援を受け、厳しい緊縮策を進めながらも、国内の反応が異なるポルトガルとの相違を感じずにはおられません。これも畢竟、国民性の違いということなのでしょう。

さらに、先月フランスで社会党の大統領が誕生し、財政規律を重視するこれまでの政策に成長戦略をもっと加味すべし、との論調がEU内で強まってきたのは、ここ一月余りの変化です。ポルトガルでも、緊縮策による負担増や若年層で殊に深刻な失業の増大などで、緊縮一辺倒の施策では将来への希望が持てず、そもそも経済政策として片手落ちではないのか、との批判も強くなっています。

ポルトガルは、厳しい財政規律を規定した「EU財政協定」を、他の加盟国に先がけて4月に批准しています。政府の緊縮策や構造改革に関するトロイカ側の定期審査では、今回も当国の努力をおおむね評価する結果となる見込みです。労組などの反対運動も、引き続き穏健な状況です。しかし、最大野党の社会党はEU内での論調の変化を反映するように、右「財政協定」の批准に加えて、成長戦略も重視するよう政府に求める文書の採択を国会で要求しています。これには世論の支持も、小さくないように見えます。

他方、経済の現状は、観光業が引き続き好調なのに加えて、月例の貿易統計がこのところ貿易黒字の拡大を示しているのは、当国にとり幸いなことです。しかし、付加価値税などの税率引き上げによる税収増の効果はまだ見えていません。また、たとえば高速道路の利用者数が減少したり、小売業や飲食業の関係者から悲鳴の声も聞こえるなど、全般的状況は容易ではありません。

今月16日にギリシャ議会の再選挙があり、またフランスの新政権やドイツ政府の出方、さらにスペインの経済状況など、ユーロ危機の展開も不透明です。この中に身をゆだねるポルトガルが、あまり運命を翻弄されないよう祈りたいと思います。当国の正念場はまだまだ続きそうですが、引き続き注意深く動向を見ていきたいと思ます。

先月は、徳島市と姉妹都市のレイリア市で、市制467周年の記念式典があり、訪問して来ました。この機会に、先月東京と徳島を訪問したレイリア市長から訪日の感

想をお聞きしました。同市長は帰国直後で時差が消えていないと言いながらも、日本で大変な歓迎を受け、同行した同市の企業、教育関係者共々大変満足しているとのことでした。特に、経済面で交流の進展があったこと、徳島大学と地元の高等技術学院との交流協定を結べたこと、モラエスの業績をポルトガルでさらに紹介するため、徳島の友好協会や徳島市と協力する話が進展したことなど、記念式典の挨拶でも訪日の成果に言及していました。今後もこのような地方自治体の交流に、当館としても支援を続けたいと考えています。

当地では、寒さと暑さが交互に訪れる不安定な気候が続きましたが、これからは初夏の陽気が多い季節となって行くでしょう。

皆様には、時節柄ご自愛のほどをお祈り申し上げます。